

令和6年度事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

I 法人の概況

1 設立年月日

平成16年8月16日

2 定款に定める目的（第3条）

岐阜県産農畜産物の安全性の確保、安心感の向上及び県民の健康増進に関し、必要な検査、調査、研究及び啓発を行い、もって県内農畜産業の健全な発展に寄与する。

3 定款に定める事業内容（第4条）

- (1) 残留農薬分析、土壌分析、米食味分析その他分析検査事業
- (2) 健康増進に関わる農畜産物の研究開発事業
- (3) 岐阜県産農畜産物の情報提供、普及啓発事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4 所管官庁に関する事項

岐阜県（農政部農政課）

5 会員の状況

（令和7年3月31日現在）

種 類	当 期	前期末比較増減
正 会 員	11 団体	—
賛助会員	4 団体	—
合 計	15 団体	—

6 事務所所在地

岐阜市宇佐南4丁目11番5号

7 役員等に関する事項

（令和7年3月31日現在）

役職名	氏 名	常勤・非常勤の別	現 職
理 事 長	平工 孝義	非常勤	学識経験者
理 事	櫻井 宏	非常勤	ぎふ農業協同組合代表理事会長
理 事	志田 浩一	非常勤	飛騨農業協同組合代表理事組合長
理 事	山内 清久	非常勤	全国農業協同組合連合会岐阜県本部運営委員会会長
理 事	足立 葉子	非常勤	岐阜県農政部長
理 事	西津 貴久	非常勤	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学応用生物科学部長
監 事	西村 寿文	非常勤	全国農業協同組合連合会岐阜県本部長
監 事	川村規明生	非常勤	岐阜県農業協同組合中央会専務理事

- ・理事：現在数6人（定款第21条第1項第1号による定数は4人以上10人以内）
- ・監事：現在数2人（定款第21条第1項第2号による定数は2人以内）
- ・任期：2年（令和5年6月30日～令和7年6月の通常総会終結時）

8 職員等に関する事項

(令和7年3月31日現在)

職員の区分	人 数	備 考
職 員	5 名	管理部門2名、事業部門3名
臨時職員	1 名	事業部門1名
計	6 名	※その他、民間人材派遣会社からの派遣職員2名

9 許認可に関する事項

該当無し

II 令和6年度事業の状況

1 農産物の安全性確保及び品質向上に関する業務

(1) 残留農薬分析業務

ア スクリーニング分析（多成分一斉分析）

(ア) 分析件数

J Aグループの自主検査対応を主体とする会員からの受託件数は、全体で前年実績を21件（割合で約3%）下回り、計画件数の約9割にとどまった。

区 分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
穀 物	130 件	120 件	92.3%	123 件	97.6%
会 員	127 件	114 件	89.8%	119 件	95.8%
一 般	3 件	6 件	200.0%	4 件	150.0%
園芸作物	670 件	606 件	90.4%	625 件	97.0%
会 員	667 件	605 件	90.7%	624 件	97.0%
一 般	3 件	1 件	33.3%	1 件	100.0%
そ の 他	—	1 件	—	—	—
会 員	—	—	—	—	—
一 般	—	1 件	—	—	—
合 計	800 件	727 件	90.9%	748 件	97.2%
会 員	794 件	719 件	90.6%	743 件	96.8%
一 般	6 件	8 件	133.3%	5 件	160.0%

(イ) 分析品目数

年間71品目の分析を行った。（うち5品目は新規品目）

現在159品目の分析が可能となっている。

分析件数	品 目 名
50件以上	玄米、トマト、ほうれんそう (3 品目)
10～49件	かき、茶、なす、きゅうり、小松菜、枝豆、だいこん(根)、小麦、たまねぎ、さといも、じゃがいも、さつまいも、苺、ねぎ、人参(根) (15 品目)
10件未満	未成熟ささげ、にがうり、かぼちゃ、日本なし、キャベツ、みずな、ピーマン、甘長とうがらし、ぶどう、未成熟そら豆、未成熟いんげん、モロヘイヤ、大麦、もも、いちじく、栗、メロン、サンショウ(実)、にんにく、オクラ、未成熟とうもろこし、ズッキーニ、かぶ(根)、アスパラガス、とうがん、まくわうり、うめ、あおうり類、しゅんぎく、わけぎ、さんとうさい、パプリカ、なつみかん、みかん、ショウガ、ブロッコリー、白菜、りんご、しいたけ、キウイフルーツ、やまいも、だいず、キクイモ、はこべ、えんさい、ゆず、なばな、レタス、 <u>すだち</u> 、 <u>かぼす</u> 、 <u>アピオス</u> 、 <u>つぼみな</u> 、 <u>ぼんかん</u> 、 (※下線の品目は新規) (53 品目)

(ウ) 分析結果

分析試料のうち、検出あり（基準値の 1/10 以上）と報告した試料の割合は 5.8%と、前年実績より 2.0%下回った。

区 分	全 体	検出あり（基準値 1/10 以上）	
		年間実績	前年実績
分析試料数	727 件	42 件 (5.8%)	58 件 (7.8%)
報告成分数	228,693 成分	45 成分	69 成分

※ 穀類、園芸作物のみ（その他分類の基準値がないもの除く）

イ 単成分分析

単成分分析件数は、スクリーニング分析結果による追跡調査等、特別な目的を持って行う分析であることから、年度毎の変動が大きいが、前年実績の約 2 倍、計画値の約 1.5 倍となった。

区 分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
穀 類	30 件	16 件	53.3%	16 件	100.0%
園芸作物	30 件	23 件	76.7%	25 件	92.0%
そ の 他	10 件	70 件	700.0%	11 件	636.4%
合 計	70 件	109 件	155.7%	52 件	209.6%

(2) かび毒分析業務

前年度の受託は 1 件のみであったが、今年度は 55 件と大幅に増加した。

区 分	年間計画	年間実績	計画比	前年実績	前年比
小麦他	5 件	55 件	1100.0%	1 件	5500.0%

(3) 土壌分析業務

肥料高騰対策や環境負荷軽減を図る「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて受託件数は前年実績を 480 件（割合で 19%）上回り、計画値を上回った。

区 分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
A 1（7 項目）	670 件	903 件	134.8%	972 件	92.9%
A 2（7 項目）	2,130 件	2,077 件	97.5%	1,285 件	161.6%
B（3 項目）	150 件	17 件	11.3%	215 件	7.9%
簡易（2 項目）	50 件	13 件	26.0%	58 件	22.4%
合 計	3,000 件	3,010 件	100.3%	2,530 件	119.0%

(4) 米食味分析業務

受託件数は前年実績を約 3%上回り、計画値とほぼ同数であった。

区 分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
玄 米	200 件	201 件	100.5%	195 件	103.1%

(5) その他分析業務

DNA及びカドミウム分析については、アウトソーシングにより実施。分析件数はともに前年実績、計画値を下回った。

区 分	年間計画 (A)	年間実績 (B)	計画比 (B/A)	前年実績 (C)	前年比 (B/C)
DNA	80 件	73 件	91.3%	80 件	91.3%
カドミウム	80 件	73 件	91.3%	77 件	94.8%

2 農畜産物の認定、認証及び調査に関する業務

(1) 特別栽培米生産管理工程確認の評価業務

前年度に引き続き、ぎふ特別栽培米取扱要領に基づく生産管理工程の確認業務について、全農岐阜県本部より諮問を受け、その評価業務を実施した。

＜評価業務内訳＞

実施日	評 価 対 象 工 程
R6.7.1 R6.12.9 R7.3.21	令和6・7年産ぎふ特別栽培米、精米・玄米袋表示原簿作成工程、変更申請書承認工程、及び栽培記録検証工程

3 健康増進に関わる農産物及び食品の開発・研究等に関する業務

(1) 固形培地耕栽培に対応した病虫害防除対策技術研究事業

ア 研究の目的

従来の土耕栽培に比べ固形培地耕栽培は、栽培労力軽減や土壌病害回避が出来る栽培法として開発され普及が進んでいる。一方、本栽培方法は「人工培土を使用」し、かつ「根圏が制限される」など根域の環境条件が特異であるため、土壌処理農薬については適用があっても、その使用について安全性の確認が必要となっている。

特に夏秋トマトや夏秋ナスで普及を進めている3S栽培（ナス科果菜類隔離型少量培地耕栽培）では、培地を再利用する要望もあり、土壌消毒剤の適正な使用方法について早急に検討する必要がある。

イ 研究期間

令和3年度～令和6年度（4年目） ※当初予定から1年延長

ウ 令和6年度の研究内容

前年度に引き続き、3S栽培に適したカーバムナトリウム塩液剤の処理方法を検討し、総合的な殺菌技術を確立する。

- ・実 施 方 法：県農業技術センターとの共同研究として実施する。
当センターでは、技術確立のための農薬分析の一部を担う。
- ・3Sシステム：岐阜県が開発した夏秋トマト栽培に係る養液栽培技術
「Small amount Separated cultivate-system for Solanaceae」

エ 実績等

- ・培地と代表的な土壌群3種（灰色低地土、黒ぼく土、黄色土）を用いて、土壌12検体の分析を実施し、カーバムナトリウム塩液剤処理後の挙動（消長）を調査した。

(2) ISO認定取得事業

今年6月にISO認定業者からサーベイランス審査を受審し、特に問題となるような指摘事項は無かった。

(3) 業務カイゼン調査研究事業

ア 令和6年度の研究内容

- 一斉分析方法の最適化（コストの削減、成分の見直し）
- 一斉分析では分析困難かつ使用頻度の大きい成分の分析法の確立

イ 研究実績

- ・ 令和6年4月に第1回カイゼンミーティングを行い、改善テーマの絞り込みを行った。

【テーマ案】

- ① グリホサート及びグルホシネートの分析対象作物の拡大〈継続〉
- ② ジチオカルバメート系農薬の個別分析方法の確立〈継続〉

- ・ 令和6年9月に第2回ミーティングを行い、研究の進捗状況について報告し、令和7年3月の第3回ミーティングにおいて令和6年度の成果を報告した。

- ①グリホサート及びグルホシネートの分析対象作物の拡大について
誘導體化を利用し、従来よりも感度が向上した分析法を開発した。
しかしながら、誘導體化物の安定性に課題が残っており、次年度も引き続き検討を行う。
- ②ジチオカルバメート系農薬の個別分析方法の確立について
水、だいずを用いた添加回収試験を実施し、誘導體化を含む分析法を確立した。
一律基準への対応は困難だが、令和7年度からは当センターで対応できるようになった。

4 情報提供・啓発に関する業務

(1) 普及啓発業務

岐阜県産農産物についての安全性の確保、安心感の向上及び県民の健康増進に関する普及啓発を推進するため、県内JAを訪問し、営農担当役員と残農検査の現状と今後の課題等について意見交換を行った。

(2) 情報提供業務

インターネットホームページを適宜更新するとともに、「ぎふ農研NEWS」を5月と11月に年2回発行した。

5 会議に関する事項

(1) 総会の開催

○第61回通常総会

- (ア) 開催日：令和6年6月28日（金）
- (イ) 開催場所：県農協会館2階 大会議室
- (ウ) 議 事：令和5年度事業報告、決算報告、役員の選任

○第62回臨時総会

(ア) 開催日：令和7年3月3日（月）

(イ) 開催場所：県農協会館6階 J A岐阜中央会役員会議室

(ウ) 議 事：令和7年度事業計画、負担金、役員報酬、令和7年度予算、令和6年度事業実施見込報告

○総会決議の省略（書面）

(ア) 開催日：令和7年3月31日（月）

(イ) 議 事：理事の選任

(2) 理事会の開催

○第1回理事会

(ア) 開催日：令和6年6月13日（木）

(イ) 開催場所：県農協会館2階 J A岐阜信連役員会議室

(ウ) 議 事：令和5年度事業報告、決算報告、第61会通常総会の開催

○第2回理事会

(ア) 開催日：令和6年10月28日（月）

(イ) 開催場所：県農協会館6階 J A岐阜中央会役員会議室

(ウ) 議 事：職務の執行状況報告

○第3回理事会

(ア) 開催日：令和7年2月4日（火）

(イ) 開催場所：県農協会館4階 J A全農岐阜役員会議室

(ウ) 議 事：令和7年度事業計画、負担金、役員報酬、令和7年度予算、令和6年度事業実施見込報告、第62回臨時総会の開催

○理事会決議の省略（書面）

(ア) 開催日：令和7年3月26日（水）

(イ) 議 事：理事の選任を総会決議の省略の方法（書面）により行うこと